



申 14 号

未曾有の物価上昇に対し

健康で文化的な生活の保障を求める緊急申し入れ

11月14日 団体交渉を行う!

そもそも

- 営業利益が業績予想に及ばなかったこと
- 有利子負債の1兆円以上の増加
- 先行きに不透明感があること

会社の主張する回答の根拠は

経営の責任であり、社員の責任ではない!

**正当な評価ではないことを指摘!
社員の思いに馳せる行動をとるべきだ!**

申14号交渉で
明らかになった

会社の認識・考え方

- 賞与は、労使交渉を踏まえ、判断している。また、業績の水準からも判断しなければならない。
- 賃金の水準は、「生活を送るための支給水準」の考慮要素の一つであり、支給した賃金が生活に直結し、賃金で生活が成り立っていることは強く認識している。
- 労働条件を切り縮めて、業績を確保する考えはなく、労働条件と業績の確保をしっかりと作り出す。
- そして、生産性や収益力を向上させ、春季労使交渉でベースをどう引き上げていくかの議論の必要性は認識している。
- 目指す収益構造5:5は、鉄道事業が下がることは望ましく無く、「融合とシナジー」で実現を目指す。また、シナジー効果で人口減少や鉄道のご利用減に歯止めをかけ、ご利用増を目指していくもの。

**社員あつての会社であり、社員・家族の生活・生計を維持し、
企業の各種事業で働いてもらうことが会社の責務だ!**

会社

黒字経営下でも低水準の支給額 正当さ主張

「厳しい業績を踏まえたギリギリの回答」

要求実現せず

**過去最高益下でも真っ当な還元はされてこなかった!
会社の認識・考え方の欺瞞(ぎまん)を暴く職場議論を展開しよう!**